

宇宙人との出会い

あまりにも日照時間が短い東京の夏。

思えばその直前までは

「スーパー猛暑」

「水不足」

だと大騒ぎしていたのが、もはや数年前の出来事で懐かしさすら覚える今日この頃である。

さて、セルドロン事業は本当に数多くの方々を支えられてやってきたが、ここに来て特筆すべき活躍をしてきている

長岡生コン 宮本社長

を紹介させて頂きたい。私は、彼は「宇宙人」だと本気で思っている

彼と会って既に十年近くになるが、当初は「風変わりな、ひよる長い青年」だった彼が、どこでどうエイリアンが入り込んだのか分からないが、この十年年間ですっかり無敵の存在になってしまっている。

生コン業界は聞けば聞くほど、知れば知るほど奇妙な世界であり、昭和30〜40年代の爆発的な高度成長期を支えた残像を、いまだに踏襲している一種の凄さすら感じる。

その非常に出来上がった業界において、異様な光を放ち、「元気な生コンネットワーク(略称GNZ)」の発起人であり且つ運営者であるのが、宇宙人・宮本充也である彼は海老蔵に負けないぐらいの頻度でブログを更新し「残コン」「透水性コンクリート」と、正直毎度お馴染みの話題を多方面からの切り口で書き綴っていく。

昨今は、どうやら多少笑いの要素を組み入れていたようだが、これだけ書いていけばマンネリ打破をせざるを得ないから仕方ない。等々、試してみれば私も愛読者の一人であるが、皆さんも是非お目をお通し頂きたい。

彼はいま川端工業の中村光宏社長と共に「残コンフォーラム」を形成して、全国47都道府県を行脚しており、各地で残コン処理のデモを敢行している。当然、我がセルドロンもそのラインナップと言うか、主役の一人となっている。

先日もそのご縁でコンクリート新聞の一面に掲載して頂いたが生コン業界としても見過ごせない存在になってきている。加えてメディアの話もさせて頂くと先月号でも話題になった愛媛県においては「愛媛経済レポート」の一面にセルドロンを掲載して頂いた。

ベンチャー企業、それもIT関連ではない製造業のベンチャー企業が、一人前になるには相当な時間と、相当なご縁が無いととても不可能であると、心底、痛感させられている私にとつて宮本充也のような宇宙人は無くしてはならない存在である。また、愛媛のケースの様に、当然数多くのサポートを頂きながらではあるが、自治体での実績はこの種の企業体が歩いていくためには絶対に無くてはならない存在と思っている。

農作物栽培フィードバックテスト続報

今年の5月1日に浚渫土をセルドロン改良した温州ミカンには、無事、ここまで大きく育っている。植物の発育には太陽と雨が必要なのに、ベンチャー企業自身の情熱は勿論であるがそこにご縁とサポートが無ければ絶対に成長して行けない。そんなことを思いつつ、今日もまた宮本充也のブログを読んでいる。



表面リンク集

宮本社長ブログ <http://www.nr-mix.co.jp/topics/>
元気な生コンネットワーク <http://genki-namakon.net/>
川端工業 <http://www.kawabata-cp.com/page1>
コンクリート新聞一面 http://www.nr-mix.co.jp/topics/post_205.html
愛媛経済レポート <http://www.ekr.co.jp/news/>

鹿島建設株式会社様 セルドロンにて残コン処理

鹿島建設株式会社様でまたセルドロンが活用されました！

スーパーゼネコンの鹿島建設様でも、多少の残コンはどうしても発生してしまいます。要するに、現場ではほぼ必ず残コンが発生し、現場努力により処理をしているのが現状です。今回の用途は、ポンプ車の配管に滞留した生コンクリートを場内で処理しなければいけない現場です。

それは、地下トンネル。

残コンの処理方法としてよく聞く話は、アジテータ車に戻したりコンクリートブロックを作って処理をするが、地下のためどちらも不適合でした。

今回の現場を整理すると

- ・ 1^{m3}程度の残コン。
- ・ 生コンクリート車に戻せない。
- ・ 地下のためブロックを作るとそのままでは地上あげられない。(重くて大きい)
- ・ 処理するスペースがない。(トンネル内)

上記の理由から、セルドロンに声がかかりました。初回の打合せですぐに採用が決まりました。そのスピード感が現場の状況を物語っていた。

当日現場では、先送りモルタルの受け皿になるフネと、残コンを受けるプールが準備されていました。

いつものように、セルドロンを混合攪拌するだけで改質できる。

現場は、角スコップ1つとハンドミキサー1つ。

0.5^{m3}の先送りモルタルは、セルドロンを5^{kg}程度でぼそぼそに。

1^{m3}の残コンは、セルドロンを25^{kg}混合攪拌。

多少の攪拌手間や飛散はあったが、改質後の状態は良かったとお言葉をいただいた。

まだまだ今後も、攪拌方法は改善していく必要がある。次回には、更に良い方法を示せるようにしたい。



残コン



攪拌直後すぐに人が乗れる残コン

河川の浚渫案件

また面白い話がYDN(やんちゃな土木ネットワーク)からいただきました。毎年浚渫工事をしている河川で処理方法について改善方法がないかを検討しており、今は1^{m3} 20,000円かけて浚渫が行われており、今年度は25,000^{m3} 施工予定。現在、複数社の技術と協議されているようだったので、ぜひコンペを開いてほしいと提案しました。

* 長らくご愛読頂きました、「キム・ギョンのコラム」ですが、七月末をもって帰国した為、連載終了となりました。セルドロンが韓国進出の際は、きっとキム氏が活躍してくれると思います。一年強の短い期間でしたが、ご愛読ありがとうございました。